

「千葉県精神障害者家族会 体制強化運動について」

NPO 千葉県精神障害者家族会連合会

千葉県家連では毎年2月に「家族会現況調査」を実施しています。今年の調査では県下37家族会から家族会の足元を揺るがす組織体制の課題が提起された、その影響は「家族会の存続」が問題になるまでに大きくなっています。

(1) 千葉県家連の「家族会現況調査の課題」(令和4年調査)

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| ① 会員の高齢化による諸課題……………13会 (35%) | |
| ② 新規加入者の減による諸課題……………10会 (27%) | 小計 23会 (62%) |
| ③ 会長、役員の後継者がいない……………7会 (19%) | 計 30会 (81%) |
| ④ 家族会存続の課題……………3会 (8%) | |
| ⑤ その他課題……………(11%) | |

※ 特に④の家族会の存続では、1家族会が解散を実施し、2家族会が解散を検討しています。現状は会員の高齢化が進み新規の入会者が少ないことから、組織の高齢化が進む一方です。

この課題提起を受け千葉県家連は“精神障害者組織の危機”ととらえ、向こう3か年をかけて「千葉県精神障害者家族会体制強化運動」を実施することになりました。

厳しい環境下にあることから、目先の会員増加という対応ではなく、県下の全精神障害者・家族にとって、家族会の存在意義を改めて問い直し、再評価し県下精神疾患を患う方々のご理解と協力を頂き体制の強化に取り組むものとします。

(2) 全国組織の対応(平成24年調査)

全国組織「みんなねっと」は平成24年に47都道府県812家族会(1217会中)について『全国調査』を行いその2年後に『家族会運営のてびき(97P)』を作成し、今回の千葉家連の調査とほぼ同様な危機状況を集計し次により発表しています。(％は全国の回答者の割合)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ① 会員数の減……………49、4% | ② 会員の高齢化……………81、5% |
| ③ 新しい会員が増えない……………47、6% | ④ 役員の成り手がない……………62、4% |
| ⑤ 会のパンフレットがない……………44、7% | ⑥ 機関紙がない……………51、2% |
| ⑦ 会の活動が停滞気味……………44、3% | ⑦ 会が衰退している……………20、2% |

平成24年と今回の違いは千葉家連の調査では3家族会から「家族会の存続」に課題が出ていることで、家族会の衰退が更に進んでいることを表わしています。平成24年度ではこれら調査等をもとに「みんなねっと」が全国の家族会組織強化の先頭に立った改善運動はされていませんでした。

(3) 千葉県家連はH24年に全国が実施した「全国調査」と「家族会運営の手引」の報告を受け、平成26年～29年度の4年間に亘り次により「県下家族会組織強化運動」を実施しました。

① 県行政等との連携による運動

県では千葉県精神保健福祉センターが家族会の組織育成を担当業務としており、同センターより各地域の保健所等に家族会強化運動の主旨を伝え徹底を図った。

② 印旛地域精神障害者家族会支援に関する懇談会を開催し体制強化の千葉県のモデル地域に位置付けしました。平成26年12/18、郡下7家族会、市町村8人、県3人が参加

※平成27年3/4 主催、印旛保健所「これからの家族支援について」の講演会開催

講師 淑徳大学専任講師 伊藤 千尋

③ 千葉県家連の対応

ア、家族会への加入・未加入を超えた共通課題としてテーマ「親亡き後自立プラン」を県下全域に説明に回り、未加入者の加入促進と併せ親亡き後の啓発を行いました。(15地域、975人参加、うち未加入者は505人の51、7%).....資料1

※ この説明会は「親亡き後」の啓発と未加入者の加入促進に目的がありましたが、アンケートでは98%の方が役立つとしています。評価されたのは親亡き後が中心となり新規加入の促進までに至りませんでした。(当時は家族会の閉鎖の声まではありませんでした)

イ、家族会のパンフレットがない4家族会にパンフレット作成を支援した。

(4) 新たな「千葉県精神障害者家族会体制強化運動の実施について」(令和4年8月～7年3月の3ヵ年)

現在、千葉県で家族会に加入されている人数は1300人で県下の統合失調症数26000人で割ると5%ということになり、95%の24700人の方々は家族会未加入で家族会を頼らず生活し治療されていることになりました。

このような中家族会に加入されていない精神障害者への対応は、先の「親亡き後」の研修を受けた505人未加入の方々の意見では ①家族会を知らない方がおられる。②多くの方で知られていないことは ①千葉県扶養年金があること ②訪問看護ステーションがあること ③障害者を輸送する移送会社があること ④薬の強さを表わすCP換算があること ⑤障害者手帳を持つことが大切であること(令和2年8月より1級の方の医療費が無料になった、要申請)、⑥親亡き後の相談先をどこにするか等です。

冒頭、「家族会の存在意義を改めて問い直し」としていますが、前記「親亡き後」の意見に加えて次による家族会の存在意義を挙げることが出来ます。

- | | |
|---|------------------------|
| ①講演、研修、会報等による情報の提供。 | ②国県市町村への要望書の提出。 |
| ③定例会等での情報の交換(心を開いて) | ④危機状態での相互扶助(SOSへ) |
| ⑤苦楽の仲間が集える場 | ⑥弱い者が集まり強者になる(一人の声は弱い) |
| ⑦家族会との出会いで孤立からの脱却 | ⑧大変な状況でも笑って過せる場 |
| ⑨自分だけではない自覚 | ⑩家族会の皆様の言葉は経験があり重いです |
| ⑪真に精神の苦しみを理解している仲間(集団) | ⑫隠さない生き方を知り、学ぶ。 |
| ⑬家族会が積極的に守ってくれる | ⑭入退院治療は家庭と病院が一体の対応です。 |
| ⑮家族会は支援組織(病院、保健所、市、福祉事業所等)と医療、福祉の対応で常に一体です。 | |

今まで、家族会は未加入の方が95%と多くおられ、その方々へ家族会参加のお誘いが充分出来ていなかったことは、大きな反省点としてとらえています。これにより未加入の方の悩みやご苦勞を察し理解するまでにはいたっていませんでした、反面家族会の良さもお伝えできていませんでした。

今回の運動を契機に未加入の皆様にも家族会をご理解頂き、同じ苦勞をされている仲間経験に洩れなくお話しし、手を取り合って助け合って全ての活動をしていくことが、先々まで精神障害を克服する有意義な対応となることと信じています。過去の反省をすることはしっかりし、加入・未加入の隔てなく「全ての精神障害者を支援する」意思統一が必要です。

1)千葉県精神障害者家族会体制強化運動

① 運動期間 令和4年8月～令和7年3月 の3年間

② 運動内容 次の3運動 ア、イ、ウ の実施を

※ 未加入の95%の方をお誘いし家族会の良いところを見てもらい理解を図って下さい。又当該家族会の組織強化の見本になればと思います。(参加してよかった。気が楽になった。自分だけじゃなかった。勉強になった等々)

ア、「しっかり」したイベントを2回(3年中に)実施

①テーマ 現在のご自分の家族会に合ったテーマを選択

(例、病気、薬、福祉、暮し、就労、権利擁護、親亡き後……)

②参加者 未加入の方のお誘いを(企画段階目標 未加入者30%)

③「事前質問」方式の採用 参加者の悩みに当日会場で応える、…是非とも実施を、…見本添付

④千葉県家連の助成措置の活用……3年間で2回申請可

◎運動実績、参加者40人以上、(うち新規会員加入 5人以上)…2万円(3年に2回まで)

◎運動実績、参加者20人～39人、(うち新規会員加入 3人以上)…1万円(3年に1回まで)

※ 運動終了後 2ヶ月以内に 申請書を県家連提出…申請方法は後日詳細を案内します。

イ、定例会の開催……毎月又は隔月開催……経験交流の場

定例会を家族会の最重要支援機能として位置付けし充実強化を図ってください。活発に実施されているところに視察参加されることをお勧めします。

ウ、家族会パンフレットの作成……みんなねっと調査では44%の家族会にはパンフレットがないとのこと
です、ない家族会は是非作成してPRに使用して下さい。

2)家族会運営体制について……千葉県家連、単家族会としてお願いしたいこと

①千葉県精神保健福祉センター・保健所・各市町村にお願いしたいこと

イ、県センター・保健所より今回の体制強化運動の理解と主旨(95%の方への支援)の徹底支援を

ロ、県センター・保健所より家族会のない市町村への新規開設等の対応を(22市町村?)

ハ、保健所、市町村による単、家族会のイベント講師の紹介(精神疾患、生活習慣病等)

ニ、市町村による単家族会のオンラインの利用支援(ホームページ、ZOOM等)

ホ、市町村による単家族会の定例会等場所の提供、確保を、

ヘ、地元市町村とのイベント共催・後援開催を

ト、地元市町村の定例会への参加を

②各家族会にお願いしたいこと

イ、しっかりしたイベントの継続的、企画、実施を

ロ、定例会の毎月又は隔月の開催を。……経験交流によるためになる、楽しい場に

ハ、家族会パンフレットの作成……PR用

ニ、隣の家族会とのイベント共同企画を

ホ、執行部体制の新陳代謝を(若手、女性の採用)

(千葉県下精神障害者家族会組織強化運動)

H30、2、1

県下「親亡き後」研修会の終了について(報告)

親亡き後の研修はH30、1、14(日)の印旛ブロック研修会を最後に、県下15回に亘る研修会を終了いたしました。

1. 開催状況

この研修会は県下の統合失調症の方が25,000人おられ、うち家族会に加入されている方が5,2%の1,300人と少ない状況にあり、これを受け県家連は会員への親亡き後の啓発と、併せ全ての家族に共通の悩みのテーマである「親亡き後」の研修を通じて95%の未加入の方々に、家族会を理解頂き、感心を持ってもらい、加入の促進が図られればとの思いから研修を実施したものです。

(期間) H28年、H29年の2ヵ年。(実績)研修15回、参加者975人(未加入者505人、51,7%)

2. アンケート (毎会おなじアンケート用紙を使用、975人中430人提出)

アンケートでは98,3%の方がこの研修は「役に立つ」との回答を頂きました。

沢山のアンケートの内容は“切実たる思い”を訴えるもので、このような研修は「本当に助かりました」の声を多く頂き大切な意見としては

- ① 家族会を知らない方がおられること
- ② 多くの方が知られていないことは、千葉県扶養年金、訪問看護ステーション、移送支援、CP換算値、障害年金、福祉手帳の取得の大切さ等
- ③ 親亡き後、相談先をどこにするか等

3. 研修資料、「親亡き後・自立プラン」について

今までに精神ではこのような資料がなかったことから、注文が多く、総数、4,800冊を作成した。

(内訳は)

- ◎県内家族会会員へ 1,400冊(無償)
- ◎県内未加入者へ 1,700冊(200円有償)
- ◎県外(28県)から注文1,700冊(200円有償)

尚、冊子の初版がH24年でその後、制度改正等があり、追加が必要となった次の項目を「その2追加資料」として作成しました。

- ① 終いの住まいとしての掛かる費用について
- ② 兄弟姉妹との関係について
- ③ 成年後見制度の利用について
- ④ 就労・特例子会社について
- ⑤ 障害年金・等級判定ガイドラインについて
- ⑥ 地域住民への理解について

尚、この作成には一部千葉県社会福祉協議会の助成金を活用しました。

15回の研修開催状況

年月日	開催地区	参加者	未加入者	役立%
28、8/9	匝瑳市	38	8	50,0
8/20	銚子市	47	27	95,2
9/27	市原・君津	71	32	97,9
10/15	千葉市	103	44	100、
10/29	旭市	17	0	—
12/16	長生郡	61	27	95,9
29、2/15	山武郡	42	21	100、
2/18	野田市	81	65	95,8
3/18	船橋市	130	93	97,8
5/27	松戸市	58	40	93,6
7/14	市川、浦安	47	4	100、
10/21	柏	66	36	100、
11/18	印旛郡市	115	46	100、
12/16	〃 印西白井	48	30	100、
30、1/14	〃 〃	51	32	96,4
	計	975	505	98,3